

令和 6 年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

(概況) P 1
--------	-----------

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業) P 2
--------------------------------------	-----------

2 産業人材を育成する事業 (北九州地域産業人材育成フォーラム事業) ※別紙1参照 P 3
---	-----------

3 次世代を担う人材を育成する事業 (「北九州の企業人による小学校応援団」事業) ※別紙2参照 P 3
---	-----------

4 都市格(文化力・教育力)を向上する事業 (「1000人の夢寄金」事業) ※別紙3参照 P 3
--	-----------

5 まちづくり推進事業 P 4
-------------	-----------

II 法人運営事業 P 5

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る。

(概 況)

令和6年度は、北九州市も物価高騰が顕著で、年平均消費者物価指数は令和2年を100とした場合、北九州市は109.3で前年比3.4%の上昇との事です（全国は108.5で前年比2.7%の上昇）。

日本銀行北九州支店の発表によると北九州の経済は緩やかに回復しているものの、回復ペースは鈍化。公共投資は増加、輸出は下げ止まりつつあり、設備投資は増加、個人消費も緩やかな増加基調との事です。経済情勢は、業種にもよりますが、全体としては、やや薄日がさしてきたと言えるかも知れません。

しかしながら、令和7年度に入り、米国の関税導入による世界的な混乱が起きており、予断を許さない情勢となっております。

その様な中、令和6年度のKPEC事業は、これまでの主力の公益事業である；

- ①もったいない総研事業
- ②北九州地域産業人材育成フォーラム事業
- ③北九州の企業人による小学校応援団事業
- ④1000人の夢寄金事業

に加えて、前期に引き続き、法人事業として「風力発電人材育成事業」に取り組みました。

また、北九州活性化協議会が直面しておりました最大の課題でありました財務改善につきましては、令和5年度に続き、経常収支は黒字を達成することができました。

これもひとえに皆様のご支援とご理解の賜物と承知しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド(まちへの愛着・誇り)の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する“もったいない”の普及を図ることを目的とした事業。

1) 資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進

(1) 『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進

① 『北九州紙 えこっパー』の普及促進

牛乳パック・古紙を再利用したりサイクルトイレットペーパー『北九州紙・えこっパー』を「北九州エコプレミアム選定商品(令和元年度に選定)」として効果的にPRするとともに、北九州市のホームページの暮らしの情報への掲載など、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてSDGsを推進した。

<えこっパー販売数> (1パック6個入り)

- ◇令和6年度販売数: 160,888 パック(前年比 4,912 パック減)
- ◇累計販売数: 4,327,032 パック(平成13年度～令和6年度)

<『えこっパー』のホームページでのPR>

- ◇北九州エコプレミアムホームページ [選定検討会委員特別賞の紹介]
<https://www.kitaq-ecotown.com/ecopremium/special/entry/797.php>
- ◇北九州市ホームページ [暮らしの情報(源回収された古紙の行方)]
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyoku/01100168.html>

② 『北九州紙・えこっパー』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・えこっパー』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

2) 市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産(仮称)」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

(1) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

① 『北九州市立旧百三十銀行ギャラリー』の指定管理事業の運営及び近現代建築物の保存・活用の研究の実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で旧百三十銀行ギャラリー(北九州市指定有形文

化財) の指定管理運営事業を円滑に実施するとともに、本事業を通じて、近現代建造物の保存・活用(ファシリティマネジメント)の研究と北九州地域の近現代建築物の紹介(パネル写真展・歴史講演会等を開催)および保存活動の推進を行った。

<令和6年度の主催事業まとめ>

未達成の主な要因：

外壁工事に伴う建物全体の覆屋(約5ヶ月間)による景観の悪化を嫌った主催者の開催時期の翌年度への延期と、12月9日～28日までの休館による

項目	目標	結果	参考)令和5年
利用件数	50 件	45 件	43件
稼働率	40%	38%	41%

(2) 自然環境保全ネットワークの会(通称：自然ネット)

北九州市環境局自然共生係が事務局となり北九州市の自然環境保全、動植物の調査など、北九州市のCOP15への取り組みを進めている任意団体に参画した。

2. 産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2024年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業報告書」(別紙1)の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業(北九州の企業人による小学校応援団事業)

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校127校を対象に、出前授業、教員研修及びPTA活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2024年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」(別紙2)の通り

4. 都市格(文化力・教育力)を向上する事業(1000人の夢寄金事業)

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力あるまちづくりを進めて行くことを目的とした「1000人の夢寄金」事業

※事業報告の具体的内容は、

「2024年度1000人の夢寄金事業報告」(別紙3)の通り

5. まちづくり推進事業

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

1) 産学官民連携による地域活性化事業の推進

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

北九州市の様々な課題、優位性などを調査し、令和6年度も前期と同じく「北九州市グリーン成長戦略（エネルギー戦略）」に関する情報集等を実施した。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う計画、実施した。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行った。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行った。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

<KPECニュースの発行>

◇ KPECニュース Vol69 令和6年7月17日発行（発行部数1000部）

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、K P E C 事業活動情報をタイムリーに発信した。

II 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図った。

1. 事業運営体制の検討

1) K P E C の事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

北九州市より風力発電人材育成事業に関する補助業務の受託を継続。

北九州市グリーン戦略を側面から支援し、且つ、市内の工業高校、大学校と企業の連携を推進できた。同時に財政面の改善を図る事ができた。

(2) 寄付金事業の事業化

特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化できなかった。

2) 事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPEC の役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

3) 会員募集と会員サービスの向上

(1) 会員募集の強化

新規会員募集の推進については、前年度に続き、地道な募集活動を継続したが、3増4減で会員数は1名減となった。

◇令和6年度賛助会員数：99名（対前年：1名減＊3増4減）

◇令和6年度賛助会費額：2,600千円（対前年55千円減）

(2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、K P E C が実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 理事会の開催

① 定時理事会

第1回：令和6年6月10日

第2回：令和7年2月3日

② 臨時理事会

第1回：令和7年3月14日

2) 評議員会の開催

① 定時評議員会

第1回：令和6年6月20日

第2回：令和7年3月25日

③ 臨時評議員会

第1回：令和6年4月11日

第2回：令和6年7月19日

3) 執行役員会議の開催 (月1回)

別紙4参照

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム
令和 6 年度事業報告書



北九州地域産業人材育成フォーラム
Kitakyushu Forum for Development of Human resources and Industries

I 概況

これまで「産業人材育成フォーラム」事業は；

- ① 高度人材育成を目的とした、「研修型」、「実践型」等各種インターンシップの実施
- ② 中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施
- ③ 産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を進めてきた。

令和6年度は、コロナ禍からの経済の回復もはっきりと表れ始め、社会経済活動も活発に動き始めた1年であり、感染防止対策を行いながら各事業を実施。特に1年生インターンシップでは企業から「1年生と思えない高いレベルで課題に取り組めた学生も散見された」と好評を得た。インターンシップ参加学生も、自らが考え着眼点を見つけ、課題形成を行い、解決策を生み出すプロセスを体験したことにより、産業人材として自身の能力の飛躍に繋がるなどインターンシップの本来の成果を出せた。

しかしながら、新型コロナの影響はまだ残っており、一部でインターンシップの中止や変更、社会人プログラムの準備停滞が生じ、皆様の期待に十分に沿えることができなかった。

令和6年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの事業内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

- 1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施
- 2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施
- 3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

2. 社会人育成プログラム事業の支援

- 1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたMBA活用プログラムの支援
- 2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

- 1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

- 1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進
- 2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

令和6年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は、次のとおりである。

II. 事業計画の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」に関しては、「課題」を切り口に、学生が考え、着眼点を見つけ、課題形成を行い、自らが解決策を生み出すプロセスを体験できる実施内容へ、企業のレベルを向上しつつ、「実践型(長期)インターンシップ」の環境整備と拡充を強化した。また、ニーズがでてきた、博士課程インターンシップの環境づくり、企画、開発を行った。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 **【継続】**

大学から職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施する。確実なマッチングに加え、内容の「課題化」を目指して活動を実施した。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	実施	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
企業(社)	62	21	59	34	63	29	71	23	73	16
学生(人)	41	36	55	49	47	47	50	50	35	35

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 **【継続】**

域外工学系大学生への北九州地域企業の認知度を向上し、留学生へも情報がとりやすい環境を整え更なるインターンシップの拡大に努めた。

また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応に努めた。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 **【継続】**

連携校における学生のキャリア形成と就職指導とを有機的に組み合わせ、年次に合わせて段階的にステップアップする『キャリアアップ型インターンシッププログラム』の開発と環境づくりを行った。

③ 文理融合を推進する為、文系学生の理系インターンシップ参加を推進 **【継続】**

文系学生が理系インターンシップに参加、体験する機会を提供し、学生の選択肢を拡大、また、今後不足すると予測されている IT系技術者への可能性などを探りつつ、参加に向けた環境づくりを行った。参加者は1名であった。

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 **【継続】**

将来の産業を担う人材育成のため、企業、学校、学生に実践型(長期)インターンシップの更なる理解を促し、産学協働による環境整備と拡充を行った。

《実践型（長期）インターンシップ実績推移》

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
学校(校)	2	1	1	1	1
企業(社)	4	4	5	4	4
学生(人)	6	7	5	5	4

令和 6 年度 実践型（長期）インターンシップ実績

企業・組織名	九州工業大学 情報工学部
(株)ブラテック	1 名
日本ヒューム(株)	1 名
(株)ハピクロ	1 名
(株) 石橋製作所	1 名
合計 4 社	4 名

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施 【継続】

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声など、学生に参加を促す情報をホームページに掲載し、説明会などで紹介した。

また、企業、大学関係者との意見交換により、実践型(長期)インターンシップの更なる理解促進に努め、実施企業および参加学生の拡大に努めた。

参加学生数は減少したものの、受入企業のほとんどで成果があり内容の濃いインターンシップとなった。

その他、北九州市立大学大学院次世代研究者挑戦的研究プログラムの実施についても、引き続き支援した。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 【継続】

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を行った。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》 ※フォーラム協働企業のみ

	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科
企業(社)	3	1	6	0	3	3	3	2
学生(人)	5	1	6	0	4	3	4	2

(3) 低学年に対応したインターンシップの支援 【継続】

北九州市が力を入れている SDG'S や再生可能エネルギーにつながる産業人財育成に向けて、北九州市立大学の「未来地域産業インターンシップ」など、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む 1、2 年生を対象にしたインターンシップの受入企業拡充支援を行った。

《北九大 1年 インターンシップ実績推移》

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
企業(社)	7	9	7	7	7
学生(人)	22	12	13	12	11

注) 2022年度特記：新型コロナウイルス感染者確認により、1社(2名)途中中止

《産医大 産業保健学部 2年 インターンシップ実績推移》

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
企業(社)	20	20	24	22
学生(人)	19	18	20	21

注) 2021年度特記：新型コロナウイルス感染確認により、1社(1名)途中中止

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行った。

(1) 企業研究および交流会の場の提供 **【継続】**

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップ以外でも北九州地域の企業と交流出来る機会を設けた。
実施方法については、企業や学校などの要望に応じて実施した。

【事例】

◎ 合同会社説明会

会場：九州工業大学 百周年中村記念館 1階フォーラム、2階ホール

開催日	参加企業 ※1	参加者 ※2
令和6年 6/27(木)	R6年度研修型 IS 実施 企業を中心に 22社	工学部・工学府 学生 154名

※1 地元中堅・中小企業を中心に学校が選定

※2 「産業人材形成概論 A」授業の一環として開催(受講者は必修)

◎ 企業見学

開催日	見学企業	参加学校	参加	
			学生	教員
令和6年 11/7(木)	株式会社山本工作所	九州工業大学 工学部機械・機械制御系	76名	2名
令和7年 3/19(水)	九州鉄道機器製造 株式会社	九州工業大学 工学部機械・機械制御系	10名	1名

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充 **【継続】**

今年度より、産業人材育成フォーラムのHPからインターンシップの情報のみを集約した単独HPの運用を開始。学生さんがよりスムーズに、インターンシップの情報にたどり着けるようにすると共に、参加者拡大に向け、実施の有無など早期情報発信に努めた。

<ホームページアクセス数の変化>

※「北九州地域産業人材育成フォーラムインターンシップ」TOP ページ実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ページビュー数 (PV)	12,947	11,261	6,422

アクセス減の原因として、今年度よりフォーラムインターンシップを単独 HP での情報公開と変更したため、事務局→学校→学生への情報伝達の部分でスムーズにできなかった影響があると考えます。

アクセス数の3月頃に一度増え、4月は下降、その後5月頃から再び増え始めピークは6月頃になる。これは、学校より学生へのインターンシップ実施案内やガイダンス実施、登録期限案内が影響していると思われる。今後、さらに学校と事務局の連携と合わせてガイダンス実施にも積極的にPRしていきたい。

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備 【継続】

連携校において実施されている「インターンシップガイダンス」は、今年度も対面とオンライン併用の実施となったが、事務局が直接参加し説明するなどプロモーションを実施した。

【ガイダンス R6 年度事例】

・インターンシップ全体について

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
産医大	オンライン (5/14)	産業衛生学科 2、3 年	31 名 (2年 17名、3年 14名)
北九大	対面 (5/15)	国際環境工学部・ 工学研究科	53 名
九工大 (戸畑)	対面 (6/13)	工学部・工学府	84 名

・長期インターンシップ 特化

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
九工大 (飯塚)	オンライン (10/12)	情報工学部 長期 IS 希望者	5 名

・北九州市立大学 1 年生インターンシップ

学校名	実施方法・日程	対象学生	参加学生数
北九大	対面・オンライン (5/30)	国際環境工学部 1 年	248 名

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化 【継続】

北九州テクノサポート (K T S) のインターンシップのコーディネート機能を強化し、合わせて支援を行った。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施【継続】

インターンシップに関連する各種アンケート・調査を実施、分析し、今後のインターンシップ事業運営に活用した。

《インターンシップ関係調査》

- ・ 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S 実施学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(I S 実施全企業)
- ・ 連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- ・ 連携大学・高専における地元就職状況調査 (全大学・全学部全学科別)
- ・ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査 (全大学・全学部)

＜アンケート調査結果（前年度との比較）＞

- ・ 働くことがどういうことを体験したい、学んできたことが現場でどう活かされるのか知りたいと思う学生が増加。
- ・ 実習先の実習内容に興味を持つ学生や実習内容に興味があった学生が一定数いるなど、今後についても、実施前の実習の詳細内容提供が重要。
- ・ 参加した学生は、学修意欲が高く、コミュニケーションも良好との評価。
- ・ より良いインターンシップ実施に向け、学生に対し、実習前に目的意識に関する教育やマナー教育を行う教育機関が増加。

(3) U/I ターンとインターンシップ関係性の調査事業【継続】

今期はインターンシップに参加した1年生の学生が、インターンシップ終了後も実施企業との関係性を継続的に持ち、学生と企業の繋がりや北九州への関心を育て、繋がりを維持できるかを調査した。

将来、学生が3年生に進級後、インターンシップで対象企業や他の北九州市の企業を選択する動機になるかの試行を目的とした。

約6か月のSNSでの情報発信を継続し、SNSから離脱することなく継続することができた。

《UI ターン試行的調査》

対象企業：株式会社マツシマメジャテック 参加学生：1名
尚、本調査事業は令和7年度は予算削減の影響で実施しない。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたMBA活用プログラムの支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（以下「K2BS」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業支援については、担当教員を含め学内の体制の変更に伴い、当初計画していた内容を、想定通りの実行が困難となった。

(1) 中堅・中小企業向け「MBAサテライトフォーラム」の開催・支援【継続】

K2BSによる公開経営研究講座の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の経営者・経営管理人材の育成支援（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）の一環として、「事業承継に関するセミナー」を実施、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を支援した。

開催日	事業名	参加者
令和7年 2月22日（土）	事業承継セミナー 「北九州から経営者に第三者継承を語る会」	17名 (定員30名)

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援【継続】

学内の体制変更により、当初の計画に沿った対応が一部困難となり、当初の計画に沿った対応が困難となったため、本年度の実施は中止し、次年度に向けての体制強化に努めた。

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施した。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進【継続】

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進【継続】

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

<学術コンサルティング制度活用状況>

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
活用実績 (全体)	46件	57件	49件	71件	53件	57件
(内、市内企業)	(7件)	(14件)	(5件)	(8件)	(8件)	(7件)

※令和5年度は令和6年3月末時点

<令和6年度の特徴（前年度の違いや企業様の反応）>

前年度に比べ、件数は微増程度だが、金額としては1千万円を超えるような契約依頼が複数あり、総額としては大幅に増額していることから、引き続き本学の学術コンサルティングの価値を企業様から高く評価していただけていると受け取っている。

また、北九州市内からの活用状況の件数は昨年度から1件減っているが、北九州市宇宙産業推進室様との学術コンサルティング契約を実施しており、本契約を通して市内企業との連携は深まっている。

本契約に限らず宇宙関係の学術コンサルティング業務の依頼が前年度に比べ増加しており、当該分野での研究力、知見のある大学だと認知いただくことでより企業様からの依頼が増加することを期待している。

(3) 経営管理者向け「企業の強み（魅力）認識講座」の開催【継続】

北九州地域の中堅・中小企業を対象に、自社の強み認識のための講座形式勉強会の企画・実施により、参加企業の事業価値を高め、長期的な企業成長戦略の策定・構築を支援した。

- ・ 参加企業 3 社

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行った。

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり【継続】

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進した。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進【継続】

フォーラム協働企業をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集方法について見直しを行った。

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施【継続】

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。さらに、行政や連携校、企業、団体などのホームページへの告知、リンクなどを行い、情報をより広く、より多くの方の目に留まるよう、連携を進めた。

令和6年度 北九州地域産業人材育成フォーラム 決算

(単位:円)

	項 目	予算額	決算額	決算の増減	内 訳
収 入	1)負担金	7,600,000	7,600,000	0	
	①北九州市	6,600,000	6,600,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	2,140,000	2,080,000	▲ 60,000	
	①企業会員	1,140,000	1,080,000	▲ 60,000	企業負担金 30,000×36社
	②大学・高専	1,000,000	1,000,000	0	大学等会費 300,000×3校 100,000×1校
	③交流会	0	0	0	
	3)雑収入	0	2,565	2,565	
	①出展料等	0	0	0	
	②企業見学バスツアー補助	0	0	0	
③預金利息	0	2,565	2,565		
4)前年度繰越金	500,000	705,015	205,015		
	【収入合計】	10,240,000	10,387,580	147,580	
支 出	1)人件費	0	0	0	
	①事業担当人件費	0	0	0	
	②臨時的雇用人件費	0	0	0	
	2)謝金	215,200	297,120	81,920	
	①専門家謝金	215,200	297,120	81,920	
	3)旅費	490,000	366,982	▲ 123,018	
	①旅費等	150,000	36,461	▲ 113,539	近距離旅費 等
	②専門家招聘旅費	340,000	330,521	▲ 9,479	
	4)委託料	8,399,000	8,094,920	▲ 304,080	
	①KTS業務委託	2,829,000	2,829,000	0	KTS 業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,785,000	115,000	KPEC 管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	900,000	480,920	▲ 419,080	Uターン、HP、クラウド
	5)その他経費	1,135,800	1,302,470	166,670	
	①会場借上げ料	60,000	39,100	▲ 20,900	会議室等
	②印刷費	250,000	196,515	▲ 53,485	社会人講座・インターンシップパンフレット 等
	③通信運搬費	35,000	148,951	113,951	電話料・サーバー利用料、各種調査票、リフレット郵送料 等
	④事務消耗品費	59,916	60,995	1,079	事務用消耗品費、DX対応品費 等
	⑤会議費	25,000	52,004	27,004	ZOOMアカウント費、会議時飲み物代 等
	⑥交流会費	0	0	0	
	⑦使用料及び賃借料	655,884	651,334	▲ 4,550	各種機器使用料(バス借用含む)、事務局関係諸費他
⑧参加補助費	0	0	0		
⑨雑費	50,000	153,571	103,571	振込手数料 等	
	【支出合計】	10,240,000	10,061,492	▲ 178,508	
	次年度繰越金	0	326,088		

別紙 2

北九州の企業人による小学校応援団
令和 6 年度 事業報告書

I 成果

今年度も、企業、教育委員会等の協力を得て、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等、親学推進プロジェクトを継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境づくりに努めた。

支援対象は市内の全市立小学校127校で、出前授業の利用は申し込みが56校、実施回数は316回であった（令和5年度は55校、311回）。

小学校応援団は2011年の発足から14年目を迎え、学校現場での評価の高まりや体験学習へのニーズの増大もあって出前授業の申込、実施ともに増加を続けており、地元企業全体で子どもたちの育成を支援する本事業の仕組みと実績に高い評価を受けている。

II 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境づくりに努めた。

1. 親学推進プロジェクト

PTA参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施した。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の参加を促す方法について検討した。さらにPTAの在り方についてはニーズや考え方の多様化が進んでいることなども考慮し、保護者への周知の是非、方法については慎重に検討した。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）について、必要性などについて引き続き調査を行った。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、出前授業実施校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に小学校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行った。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。

さらに、小学校からニーズの高いSDGsテーマやリモート授業について、現場の先生にわかりやすく周知した。

3) 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。毎年4月に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、小学校からのニーズの高い新規テーマの開拓を検討した。

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

平成30年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

(2) 多様なニーズへの対応

小学校のニーズが多様化しているため、小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた。

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行った。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委や教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

・小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であるため、必要に応じて小学校長との意見交換会を開催することとしているが、小

学校応援団の認知度も向上し、出前授業の申し込みも伸びていることや、教育現場からの意見や要望のヒアリングもアンケート等で実施できていることなどを踏まえ、今年度は開催を見合わせ、今後の小学校長との意見交換の在り方について検討した。

5. 参加企業の拡大と活性化

小学校応援団に参加する476の企業（団体）の活性化につながる事業を検討した。具体的には参加企業が地元への社会貢献をPRできるようSNS等を活用した広報体制の充実を図るとともに、企業側の人材育成、出前授業を通じたOJTのメリットなどを周知した。また参加企業のさらなる拡大についても検討を行った。

- ・参加企業にアンケートを実施し、ヒアリングを行う予定であったが、その前段階として今年度は新任の事務局長が出前授業の現場を積極的に見学し、各講師に面談によるヒアリングを行った。
- ・企画委員会において、参加企業拡大と活性化に向けた実施プロジェクトの検討を行った。また初の試みとして企画委員による出前授業の見学会を実施した。

6. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図った。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

SNS等を活用して、参加企業の社会貢献を広く周知した。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図った。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

Ⅲ 支援体制の充実

1. 学校及び講師企業の支援体制の構築

平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネータを設置し、本事業の広報等を担ってきた。その成果もあり全小学校に本事業を周知することができ、役割は果たせたものとする。令和5年度からは新たに学校と講師企業を中心に支援する体制の構築に注力し、今年度も強化に努めた。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（127校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行った。

IV 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を昨年度に引き続き開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団 令和6年度決算

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入

単位：円

項目	予算額	実績額	参考（令和5年度予算額）
負担金	7,500,000	7,500,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500,000 北九州活性化協議会 2,000,000
利息		1,778	
計	7,500,000	7,501,778	7,500,000

支出

単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	810,000	1,003,890	講師謝金、出前授業ガイドブック
講師企業及び 学校支援業務費	700,000	0	費用弁償等
広報・プロモーション 推進費	580,000	580,800	パンフレット作成等広報費、ホームページ・ システムの運用、充実等
人件費	4,444,000	4,290,000	事務局人件費
事務局経費	970,000	1,627,088	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、 事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,501,778	



2024年度 [令和6年度] 1000人の夢寄金事業報告

ANNUAL REPORT 2024 2013/4 ~ 2025/3

2024年度、1000人の夢寄金から助成した各プロジェクトを通じて、
合計1,511人の市民の方々に “楽しい”、“嬉しい”、“面白い”、“助かった” をお届けできました。
皆様のご寄付のおかげです。ありがとうございました。

Contents (2025年5月発行)

- P1 / 「1000人の夢寄金」について
- P2-3 / 令和6年度「1000人の夢寄金」寄付金募集の状況
- P4-6 / 「1000人の夢寄金」第13回 助成先
- P6 / 広報
- P7 / 助成先について

1000人の夢寄金について

～ 市民による市民のための寄金 ～

「1000人の夢寄金」は、
(公財)北九州活性化協議会(KPEC)が平成24年10月に設立した
“市民による市民のため”の民間寄金です。
北九州市の都市格(教育力・文化力)を高めることを目的に、
市民のみなさまからご寄付を賜り
ジャンルを問わず市民の教育・文化活動への支援を行っています。
この事業は令和6年度に13年目を迎えました。
平成24年の事業開始から令和6年度までの13年間で
累計6,285万9千円の寄付をいただき
88団体へ22,998万円の助成を行っています。

寄付金を募集しています!!

「このまちのために何かしたい」
「誰かと夢を共有したい」
「世の中の役に立っていることを実感したい」

そんな思いを集める地域貢献の新しいカタチ。ぜひ、お知り合いの方にご案内ください。

ご寄付の種類

- ① 基本ご寄付(1年に一度)
個人・団体: 1口 3,000円 / 法人: 1口 10,000円
- ② ご遺贈などのご寄付
「遺贈」「香典返しに代えて」など、故人のご意思やご家族の思いをご寄付として承ります

ご寄付の方法

専用の「払込取扱票」による銀行振込
※毎年の継続的なご寄付にご協力いただける方は、預金口座引落も可能です。

お問合せ先

公益財団法人 北九州活性化協議会
TEL:093-541-3122 / FAX:093-541-0636 / E-Mail:yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
<https://www.kpec.or.jp/yume>

1000人の夢寄金



《 1000人の夢寄金 令和6年度事業報告 》

01

寄付金募集事業

令和6年度も多数の皆様から温かいご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年度 寄付金合計：134万1千円

(寄付募集期間：令和6年4月～令和7年3月)

A + B + C

寄付金募集事業の内訳はつぎのとおりです。

基本寄付

個人・団体一口3,000円、法人一口10,000円を基本として寄付の募集を行いました。
「寄付のお願い」文書を発送するとともに、寄付者の振込手続き効率化と継続的な寄付を目的とした口座引落としによる寄付者の登録を推進しました。
また、ホームページからご寄付の申込ができるようにしました。
この結果、111の個人・団体・法人の皆様からご寄付をいただきました。

A 基本寄付金合計：85万7千円 《 111件 》

プロジェクト寄付

プロジェクト寄付事業としてボランティアグループ“シマウマ組”が主催するチャリティーバザー「クラフト・チクチク de マルシェとワークショップ」は、今年も盛況を博しました。
また、“シマウマ組”が製作する、小倉織のぬいぐるみが引き続き好評で、“シマウマ組”のみなさまから以下のとおり、ぬいぐるみ(シマウマ・カバ)販売によるご寄付をいただきました。

B プロジェクト寄付金合計：28万4千円

「縞縞のシマウマ」「時々ヨコシマなカバ」の販売

「縞縞のシマウマ」「時々ヨコシマなカバ」は、ボランティアグループ“シマウマ組”のみなさんが、小倉織の端切れを使用して、手作りで製作しています。ぬいぐるみの購入代金が寄付になる仕組みで、平成29年4月から本格販売を開始しています。

このぬいぐるみは、“小倉縞縞 本店”様で販売しています。
また、平成30年から、“北九州市のふるさと納税返礼品”に選定されています。

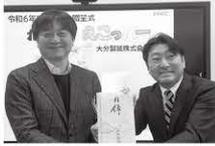


特定寄付（使途指定の寄付）

C 特定寄付金合計：20万円

※ 大分製紙株式会社様からの寄付金

大分製紙株式会社からのご寄付



令和7年2月17日「北九州紙・エコパー」を製造・販売している大分製紙株式会社様より、「北九州紙・エコパー」の売上の一部のご寄付をいただきました。

ご寄付いただいた寄付金は、市民の皆様の教育・文化活動への助成として活用させていただきます。

大分製紙株式会社様からは平成28年度から継続してご寄付をいただいております、これまでに総額180万円の寄付をいただいております。

※「北九州紙・エコパー」は1パックにつき1円が寄付金となります。



寄付金の推移

(単位：千円)

H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272	1,973	42,678	1,369	1,332	1,380	1,341
合 計										62,844		

02

助成事業

令和6年度の助成事業は、7月に一般公募を行い、「1000人の夢寄金」審査委員会による審査を経て、第13回助成事業先7団体を決定しました。

- 助成事業の募集：令和6年7月1日～7月31日
- 助成事業の審査：令和6年8月5日（審査委員会）
- 募集の結果：助成件数7件（応募件数16件）助成金額合計250万8千円
- 助成対象期間：令和6年10月1日～令和7年9月30日

第13回 助成先

【事業名】小学校アウトリーチ公演 みらいちゃんスピンオフ作品
音楽劇「ミクちゃんと先生と3人のゆかいな音楽家」
北九州ミュージックシアター・みらい / 代表理事 森岡謙一

生演奏、生歌唱で児童に感動を届けたオリジナル音楽劇

原作、脚本、演出、演奏者、役者、歌手とオール北九州のオリジナル音楽劇を北九州市内の4つの小学校で5公演実施。1600名超の児童が、テレビやインターネットでは体験できない生演奏、オペラ歌手の生歌、演技の力を体感しました。鑑賞した児童たちの心を揺さぶったようで、感想文では出演者のイラストや出演した音楽家に「また会いたい」という声も多く届きました。新たな公演依頼もあり、今回のご支援のおかげで活動継続の可能性がみえてきました。誠にありがとうございました。ご寄付くださった皆さまには、ぜひ2025年7月26日に黒崎ひびしんホールで行う本公演をご覧いただきたいです！



市内の小学校での公演の様子

<https://www.musictheater-mirai.com>



【事業名】子どもたちにアートを！ 晴ればれアートフェスタ
北九 hanako / 代表 福永ちさ

障がいの有無に関わらず思いっきり楽しむアートフェスタ



のびのび楽しんだ11月の「アートフェスタ」の様子

アート体験を通じて北九州市内に住む子どもたちが、障がいの有無に関わらず分け隔てなく尊重し合い、それぞれの違いを受け入れる心や創造性を高めたいと思い企画した「晴ればれアートフェスタ 絵の具であそぼう!」。臨床美術士を招聘し、1歳から小学6年生までを対象に、北九州市立子育てふれあいプラザを会場にした2024年11月30日(土)の開催をはじめ、全3回開催。大きな紙にみんなで描いたり、小さな紙に自分の絵を描いたりして、子どもたちが自分のできるやり方でイキイキと笑顔いっぱい、思いっきり自由に大胆に自己表現し、アートを楽しみました。

 @kitaqhanako



【事業名】北九州にゆかりのある曲にあわせた舞踊や音頭を知ってもらおう
聖幻会 / 内村典子

北九州の舞踊や音頭を途絶えさせずに受け継ぎたい

新しいものごとを取り入れることはとても大切です。一方で、北九州に昔からあるものを途絶えさせないことも大切だと考えます。北九州市民をはじめ、多くの方々に北九州の舞踊や音頭を知っていただき、受け継いでいきたいとの想いから企画。北九州音頭や小倉音頭、五平太船といった舞踊や音頭を伝えるワークショップと講話を組み合わせて展開。講話では「心躍る」をテーマに、障がいの有無に関わらず、踊りを通して互いに楽しみ合う活動等について伝えています。2024年11月、2025年3月、5月、6月、8月と計5回、黒崎や小倉北区等で実施しています。

<https://seigenkai.jp>



【事業名】キャリア教育の新しい実践～生きづらさを抱える子ども・若者たちのエンパワーメント～
(一社) キャリアサポートクラブ / 理事長 樋口陽子

生きづらさを抱える青少年への新しいキャリア教育へ挑戦



企業での仕事体験の様子

発達障害等により生きづらさを抱える子どもや若者への理解が深まり、新しいキャリア教育の取組みの輪が広がることを期待して、2025年9月までに市民や企業、関係機関等へのアプローチ、仕事体験を通じたキャリア教育の機会づくり、進路や就労を含む個別の学び、保護者同士のサポート、対話型活動報告会などを展開する。すでに小学生～高校生8名が4ヶ所の企業や2回のイベントで仕事を体験し、小学生～大学生までの20名が個別の学びコースに参加するなど、学習や進学、就学に向けた取り組みを複数回実施。子どもや若者が自主的に登校や進路選択、就職面接に取り組むようになるなど成果が生まれています。

<https://career-support.club>



【事業名】「地球のステージ」北九州公演
地球のステージ チーム九州 / 代表 服部祐充子

困難な環境の中で力強く生きる人たちを知る「地球のステージ」



エピソードに登場する子ども達～「地球のステージ」より

多文化共生、国際理解教育、平和教育、青少年健全育成などを目的に、1996年からライブ音楽や大画面の映像等と語りを組み合わせたステージで、人の持つ生きる力のすばらしさを伝えている「地球のステージ」。2025年6月22日(日)に北九州市立子どもの館子どもホールにて開催し、カンボジアや東ティモール他で医療支援活動を行ってきた心療内科医で認定NPO法人地球のステージ代表理事・桑山紀彦氏から中東の騒乱の歴史や今、ガザで何が起きているのかなどを伝えていただきます。世界を知ると同時に、自分自身を見つめ直す貴重な機会になることでしょうか。

<https://e-stageone.org>



【事業名】第2回 陸奥A子 & 地元マンガ家の「デジタルマンガ・イラストくらぶ」
株式会社 COLT / 代表取締役 大野光司

子どもから大人まで、漫画家に直接教わるデジタルマンガ講座

有名漫画家を多く輩出しているマンガの街・北九州。マンガ制作のデジタル化が進む中で、マンガ文化が根付いた街にしたいと考え企画。最終的に参加者が北九州市漫画大賞へ応募できるようになることを目指し、全国的に有名な漫画家・陸奥A子氏と地元漫画家を講師に迎え、デジタルマンガやイラストの技術、描き方や知識を直接学ぶ講座を行います。小学生以上を対象に、将来マンガ家やイラストレーターになりたい子ども達の育成、そして、デジタル作画に関心のある大人へデジタル知識と技術を教えるプログラムを展開します。2025年5月から8月までに全5回、北九州市漫画ミュージアムで開催を計画。

<https://www.colt-manga.jp>



【事業名】「遊ぶ楽校やた」フリースクール事業 ～児童・生徒の学校以外の学び舎づくり～
遊ぶ楽校(がっこう)やた / 楽長 寺田美貴

生きづらさを感じている児童生徒の居場所・学び舎づくり

不登校と呼ばれる児童生徒の居場所、学び舎づくりを、門司区を拠点にした週3回の「通常活動」と企業訪問ややた食堂を行う「行動活動」の2本柱で実施しています。通常活動では児童生徒が好きなことや得意なことを見つけて伸ばしていけるよう、曜日ごとにテーマを設け、児童生徒の自主的な活動を積み重ねています。「行動活動」では、児童生徒が地元の企業に出会い、知り、体験して学び、視野を広げる企業訪問実習を実施。あわせて子ども達がメニューを決め、食材調査、原価計算、売値設定、アンケート作成と集計、調理、受付、接客、片付け等をスタッフとともにやるやた食堂も展開しています。

@asobugakkou.yata



助成実績の推移

	第1回 (H25)	第2回 (H25)	第3回 (H26)	第4回 (H27)	第5回 (H28)	第6回 (H29)	第7回 (H30)	第8回 (R1)	第9回 (R2)	第10回 (R3)
応募件数	10	14	10	19	16	10	16	9	7	4
助成件数	4	6	7	7	9	9	9	8	5	4
助成金額(千円)	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000	2,000	1,500	1,000

第11回 (R4)	第12回 (R5)	第13回 (R6)	合計
12	11	16	156
6	7	7	88
2,178	2,763	2,508	22,998

※ 2023年度 1000人の夢寄金事業報告において、助成金額の合計記載に誤りがございました。(誤) 23,253千円 (正) 20,490千円

03

広 報

[1000人の夢寄金] 事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebook、メール配信(メールニュース)でお知らせしています。

夢寄金 ホームページ URL
<https://www.kpec.or.jp/yume>



夢寄金 facebook URL
<http://www.facebook.com/kpecyume>



※ 1000人夢寄金のメール配信によるお知らせをご希望の方は、お手数ですが件名に「メール配信希望、お名前」を記入のうえ、yume@kpec.or.jpへメールをお願いします。



助成先について

詳細は、1000人の夢寄金ホームページの「助成先アーカイブ」をご覧ください



<https://www.kpec.or.jp/yume/support>



第12回 令和5年10月1日～令和6年9月30日 【7件】 276万円 3,000円

- 北九州映画サークル協議会創立70周年記念
北九州映画サークル協議会 / 運営委員長 有吉和大
- 新昭和館再開告知プロジェクト
小倉昭和館 / 代表取締役社長 樋口智巳
- 関門海峡建築展2024
北九州建築デザインコミュニティ / 代表 野村琴音
- 第6回北九州市民映画祭 青山真治監督特集
北九州しねま研究会 / 代表 吉武あゆみ
- 北九州ドリームサミット2023
一般社団法人 Kitakyushu Dream Summit / 理事長 曾我部駿介
- 有名漫画家 陸奥A子「夢」マンガ・絵本くらぶ
株式会社 COLT / 代表取締役 大野光司
- Operation Table 2023年度後半期～2024年度前半期の企画展示会と関連イベント
Operation Table / 代表 真武真喜子

KPEC 公益財団法人北九州活性化協議会

〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町 1-35 北九州市立商工貿易会館 6F

TEL 093-541-3122 / FAX 093-541-0636

E-Mail: yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
<http://www.kpec.or.jp/yume>



f [kpecyume](https://www.facebook.com/kpecyume)



1000人の夢寄金

検索

別紙 4

定款(理事の職務及び権限):第32条第4項に基づく執行役員
の職務執行の状況報告。

令和6年度 (公財)北九州活性化協議会 執行役員会議 開催記録

2024年度		執行役員会議 開催実績 出席○、欠席×				
	開催日	時間	高城 会長	田園 理事長	高田 副理事長	川原 専務理事
4月度	4月25日	メール開催	○	○	○	○
5月度	5月31日	メール開催	○	○	○	○
6月度	6月30日	メール開催	○	○	○	○
7月度	7月31日	メール開催	○	○	○	○
8月度	9月2日	メール開催	○	○	○	○
9月度	10月3日	メール開催 (協議あり)	○	○	○	○
10月度	10月29日	メール開催	○	○	○	○
11月度	11月29日	メール開催	○	○	○	○
12月度	12月26日	メール開催	○	○	○	○
1月度	1月23日	メール開催	○	○	○	○
2月度	2月13日	メール開催	○	○	○	○
3月度	3月18日	メール開催	○	○	○	○